

Violin

Akiko Suwanai

諏訪内晶子

1990年に史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール・ヴァイオリン部門優勝。
翌年秋からニューヨークへ留学し、日本での活動を休止したが、95年プレヴィン指揮NHK交響楽団定期演奏会で日本での演奏活動を再開した。

その後、小澤征爾指揮ボストン交響楽団定期公演およびカーネギーホール演奏会に出演。また、ニューヨーク・フィル、ピッツバーグ響、ロサンゼルス・フィル、ミネソタ管、ワシントン・ナショナル響、パリ管、フランス国立管、BBCフィル、ハレ管、ロシア・ナショナル管、サンクトーペルブルグ・フィル、ブダペスト祝祭管、バイエルン州立歌劇場管、バンベルグ響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管などと共演。エウリアン、マールボロ、ラインガウ、ロッケンハウス、シュレスヴィヒ=ホルシュタインなど国際的な音楽祭にも数多く出演、UBSヴェルビエ祝祭管とは、アジア・ツアーを行った。

2000年にはルツェルン・フェスティバルに、リサイタルおよびクリヴィス指揮ヨーロッパ室内管との共演でデビュー、続けてベルリン芸術週間にリサイタルおよびデュトワ指揮ベルリン・フィルと共演してベルリン・デビュー、2001年にはアシュケナージ指揮フィルハーモニア管との共演でロンドン・デビューを果たした。

2002年にはオラモ指揮バーミンガム市響のアジア・ツアーにソリストとして参加、2003年には、ルツェルン・フェスティバルに再び出演し、ピエール・ブーレーズ指揮マーラー・ユグント・オーケストラと共演している。2004年4月には、ボレイコ指揮チェコ・フィルと米国ツアーを行い、引き続きサヴァリッシュ指揮によるフィラデルフィア管定期公演、同年夏にはバーミンガム市響ヨーロッパツアーにもソリストとして参加。ゲルギエフ指揮マリンスキー劇場管とも共演するなど国際的な活動を続け、2007年9月には、エトヴェシュ作曲の新作ヴァイオリン協奏曲「セブン」(2009年、モナコのピエール王子財団より作曲大賞を受賞)を、ブーレーズ指揮ルツェルン・フェスティバル・アカデミー管とルツェルン・フェスティバルで世界初演、その後日本を含め、世界各地でも初演が行われた。また、2009年上海の春音楽祭に日本人ヴァイオリニストとして初めて招待され、翌年には上海万博にも招聘された。

近年では、BBCプロムス、ブタペストの春音楽祭、グランドティートン音楽祭などにも出演、ゲルギエフ指揮ロンドン響とのツアー、パリ管とのヨーロッパおよび日本ツアー、チェコ・フィルとの中国ツアーを行い、オスロ・フィル、バンベルク響、デトロイト響、トゥールーズ・キャピトル管とも共演した。

現代作曲家作品の紹介も積極的に行い、これまでに三善晃作曲「弦の星たち」の世界初演およびアメリカ初演(1991)、クシシュトフ・ペンデレツキ作曲「ヴァイオリン協奏曲第2番・メタモルフォーゼン」の日本初演(1999)および南米初演(2004)、レーラ・アウエルバッハ作曲「ヴァイオリン協奏曲第2番」の世界初演(2004)、マクミラン作曲「ヴァイオリン協奏曲」の日本初演(2012)および北欧初演(2013)、エサ=ベッカ・サロネン作曲「ヴァイオリン協奏曲」の日本初演(2013)、エリック・タンギ作曲「In a Dream」の世界初演およびフランス初演(2013)、キャロル・ベッファ作曲「ヴァイオリン協奏曲-A Floating World-」の世界初演(2014)、藤倉大作曲「pitter patter」(2017)の世界初演などに取り組んでいる。

レコーディングでは、デッカ・ミュージック・グループとインターナショナル・アーティストとして専属契約を結んでおり、最新作「フランク&R.シュトラウス：ヴァイオリン・ソナタ 他」を含む14枚のCDをリリースしている。

2012年、2015年、エリザベート王妃国際コンクール、2018年ロンドンティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。

東京都出身。江藤俊哉氏に師事し、桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学でドロシー・ディレイ、チョーリヤ・リンの両氏に学び、同音楽院修士課程修了。その後国立ベルリン芸術大学で、ウーヴェ=マルティン・ハイベルグ氏にも師事した。

使用楽器は、日本音楽財団より賞与された1714年製作のストラディヴァリウス「ドルフィン」。

ベートーヴェン生誕
250年に贈る！

ヴァイオリン
諏訪内晶子

ピアノ
ニコラ・アンゲリッシュ

Piano

Nicholas Angelich

ニコラ・アンゲリッシュ

1970年アメリカ生まれ。5歳でピアノを始め、7歳でデビュー。1989年R.カサドシュ国際ピアノ・コンクール第2位、1994年ジーナ・パッカウアー国際ピアノ・コンクール第1位。2002年、「ルール国際クラヴィアアフェスティバル・ヤング・タレント賞」授与。ヴィクトワール・ド・ラ・ムジーク・クラシック2013では、「年間器楽ソリスト」のヴィクトワールを受賞した。

これまでに共演した指揮者及びオーケストラには、クルト・マズア指揮ニューヨーク・フィル、ウラディーミル・ユロフスキ指揮ロシア国立管弦楽団、マルク・ミンコフスキ指揮フランス国立管、パヴァー・ヤルヴィ及びクシシュトフ・ウルバンスキ指揮フランス放送フィル、デイヴィッド・ロバートソン指揮リヨン国立管、ヘスス・ロベス=コボス及びケネス・モンゴメリー指揮モンテカルロ・フィル、アレクサンドル・ドミトリエフ指揮サンクト・ペテルブルク響、ストラスブル管、モンペリエ管、ヤープ・ファン・ズヴェーデン指揮トゥールーズ管の阿姆斯特ダム公演、ヤニック・ネゼ=セガン指揮同団のサンセバスチャン公演、クリスチャン・ザカリアス指揮ローザンヌ室内管、バーデン=バーデンSWR響、ミヒャエル・ザンデルリング指揮ドレスデン・フィル、ヒュー・ウルフ及びパヴァー・ヤルヴィ指揮フランクフルト放送管、シャルル・デュトワ指揮スイス=イタリア放送管、K.ヤルヴィ指揮トーンキュンストラ管、ロジャー・ノリントン指揮シュツットガルト放送管、モントリオール響、E.クリヴィス指揮アトラント響、ロッテルダム・フィル、チョン・ミョンファン指揮ソウル・フィル、大野和士及びウラディーミル・ユロフスキ指揮ロンドン・フィル、ダーヴィト・アフカム指揮ロンドン響、ダニエル・ハーディング指揮スウェーデン放送管、ステファン・ドゥネーヴ指揮ロサンゼルス響、ジャンアンドレア・ノセダ指揮ピッツバーグ響、トゥガン・ソヒエフ指揮マーラー室内管、Y.ネゼ=セガン指揮ヨーロッパ室内管、フレリー・ゲルギエフ指揮マリンスキー管など多数。

また世界各地の主要都市でリサイタルを行っており、その古典派とロマン派の膨大なレパートリーで各地から称賛を浴びる。20世紀音楽への研究にも精力的に取り組んでおり、作曲家ピエール・アンリからは「管弦楽のないピアノ協奏曲」が献呈された。

そのほかヴェルヴィエ音楽祭、マルタ・アルゲリッチのルガノのフェスティバルにも数多く出演。2009年7月にはY.ネゼ=セガン指揮スコットランド室内管の共演でBBCプロムスに初出演した。

室内楽では、マルタ・アルゲリッチ、ジル・シャハム、ヨーヨー・マ、ゴータエ及びルノー・カピュソン、マキシム・ヴェンゲーロフ、諏訪内晶子、ドミトリー・シトコヴェツキー、ジョシュア・ベル、ジェラルド・コセ、ダニエル・ミュラー=ショット、ジャン・ワン、ポール・メイエなどと共演。弦楽四重奏団ではイザイ、ブラジャーク、バヴェル・ハース、モディリアーニ、エベヌスの各団と共演している。

また、ハルモニア・ムンディよりラフマニノフ・リサイタル、リリンクスよりラヴェル・リサイタル、ミラーレよりリストの巡礼の年(モント・ド・ラ・ムジークの「ショク」)とベートーヴェン・リサイタル。エラートよりブラームス・チクルス：ルノー&ゴータエ・カピュソン共演の三重奏曲、ルノー・カピュソンとのヴァイオリン・ソナタ、2枚のブラームス・リサイタル、パヴァー・ヤルヴィ指揮フランクフルト放送管とのブラームス：ピアノ協奏曲1・2番、またガブリエル・フォーレの室内楽とバッハのゴルトベルク変奏曲、ショパン、シューマン、リストのリサイタル(クラシカの「ショク」)がリリース。諏訪内晶子とはデッカよりベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタを収録したCDがリリースされている。



託児サービスの
ご案内

託児サービス(生後4か月から小学生入学前のお子様)をご希望の方は、チケットご購入の後、右記にお申し込みください。受付は公演前日(土・日・祝は受け付けを行いません)までですが、定員になり次第締め切らせていただくことがあります。当日のキャンセルは100%の料金をいただきます。※託児料の一部としてお子様一人につき1,000円(税込)をいただきます。

☎ 0120-8000-29 ☎ 092-263-3580
(株)テノ サポート(月～金曜日9:00～18:00)